

国道 178 号「岩美道路」整備事業と楽しく遊び心で取り組むソフト事業の展開

鳥取県 県土整備部

道路建設課

鳥取県土整備事務所 山陰道・岩美道路推進室

1. はじめに

現在、インフラ整備をはじめとした建設分野では担い手不足が深刻であり、その課題解決に向けて、「給料」「休日」「希望」の新 3K を実現するため、建設業への ICT の導入に取り組む「i-Construction（アイ・コンストラクション）」などをはじめ「建設 DX」の新しい取り組みが盛んに行われています。しかし、多くのインフラ整備事業では、近年まで新規のハード整備が重視されてきたため、その変化する建設分野を知ってもらうことや、インフラが本来有する魅力や重要性を発信することが十分に出来ていなかったのではないのでしょうか。新しい取り組みの裾野を広げ、地方の隅々まで効果を波及していくためには、ハード整備と並行し、情報発信など様々なソフト事業も積極的に展開すべきだと考えています。

残念ながらその観点では、当県の県土整備行政においても、インフラ整備事業の存在意義や魅力などを積極的に PR 出来ていなかったり、苦手意識があったりすることは否めません。そのため、今後はソフト事業に対する苦手意識や負担感を取り除き、PR する人もされる人も楽しくなるような遊び心を取り入れたソフト事業の実施やそのための環境づくりが求められます。

本稿では、全線開通に向けて工事を進める地域高規格道路山陰近畿自動車道「国道 178 号（岩美道路）」の整備状況と開通によるストック効果を紹介するとともに、整備中のインフラを活用して楽しみながら展開したソフト事業の取り組みを紹介します。

2. 山陰近畿自動車道「国道 178 号（岩美道路）」の概要

山陰近畿自動車道は、鳥取県鳥取市から兵庫県豊岡市を経て京都府宮津市に至る延長約 120km の地域高規格道路です。この道路は、鳥取県東部、兵庫県北部、京都府北部の各地方生活圏を連絡するとともに、広域的な道路ネットワークを形成し、地域を支える高次救急医療機関を結ぶ救急医療体制を確立するなど地域の交流・連携の促進と安全・安心の向上を図る道路です。

また、この山陰近畿自動車道の広域的な道路ネットワークは、平成 22 年 10 月にユネスコの「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認定された「山陰海岸ジオパーク」のエリアともほぼ重なります。そのため、「ジオパークロード」の愛称で親しまれており、山陰海岸ジオパークロードとしての観点からも、整備促進が期待されています（図-1）。

「国道 178 号（岩美道路）」は、鳥取県岩美郡岩美町本庄から陸上までを結ぶ延長 5.7km の自動車専用道路です。平成 21 年 3 月に新規事業化され、平成 28 年 3 月に岩美 IC～浦富 IC 間（L=1.9km）が開通し、現在は残る浦富 IC～東浜 IC 間（L=3.8km）について整備を進めており、令和 4 年度中の全線開通を目指しています（図-2）。

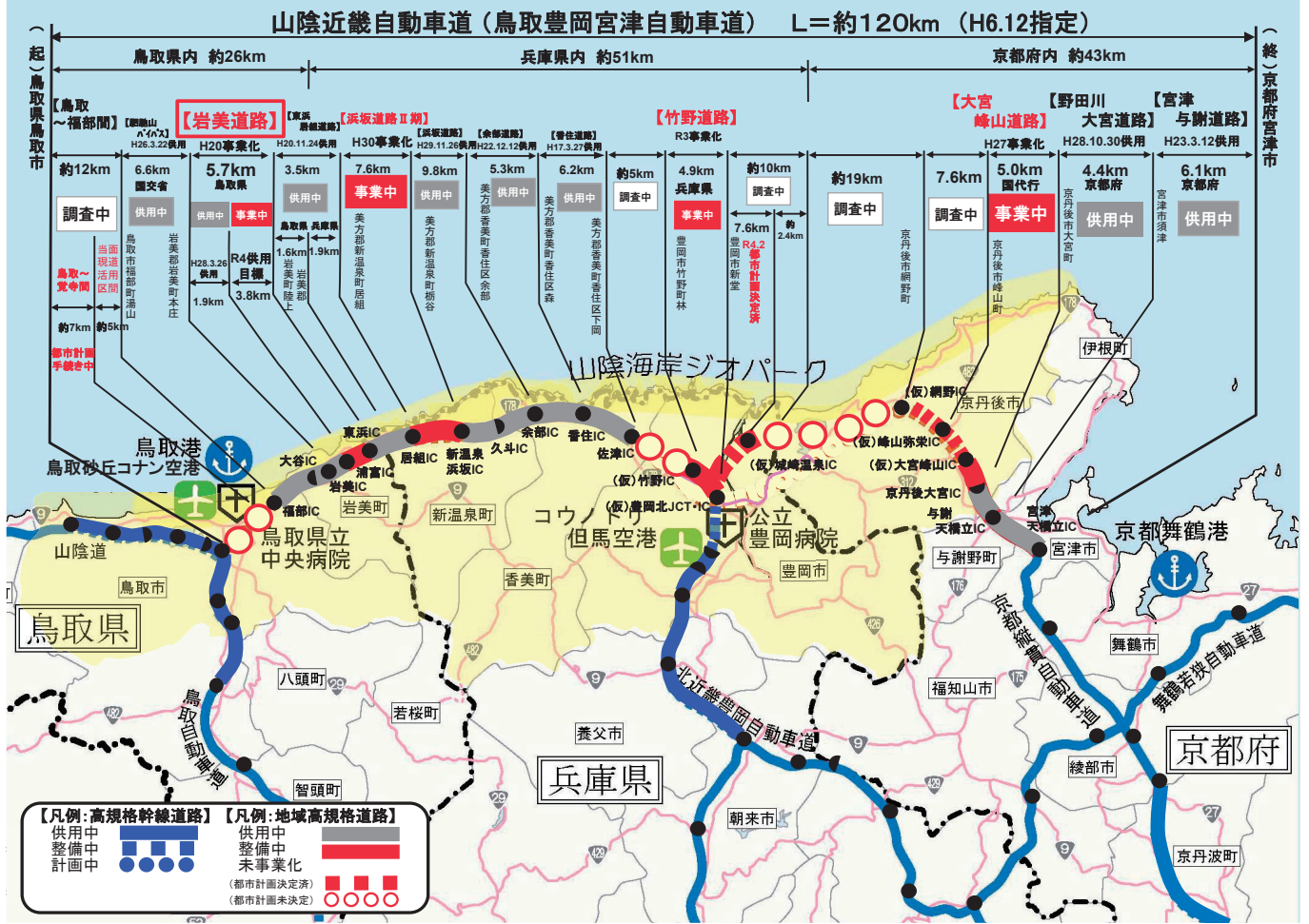


図-1 山陰近畿自動車道全体図



図-2 事業箇所図 (岩美道路)

3. 「国道 178 号（岩美道路）」の整備状況と期待されるストック効果

令和4年度中の開通を目指している浦富IC～東浜IC間では、東浜IC付近で大規模な山切工事が完了し、インターチェンジ付近の補強土壁工事や盛土工事を進めており、インターチェンジの完成形が見えるようになってきました（写真－1）。また、浦富IC周辺では浦富高架橋の床版工事が概成し、いよいよ伸縮装置や舗装など橋面工事に着手したところであり、こちらもインターチェンジの完成形が見えつつあります（写真－2）。この浦富高架橋の延長は872mあり、鳥取県が管理する橋梁としては最長となります。その他、浦富IC～東浜IC間には、東浜トンネル（L=1,133m）と牧谷トンネル（L=412m）の2つのトンネルがあり、東浜トンネルではトンネル照明等の設備工事が始まり（写真－3）、牧谷トンネルではトンネル舗装工事を進めています（写真－4）。



写真－1 東浜IC付近から鳥取方面を望む



写真－2 浦富ICと浦富高架橋の様子



写真－3 東浜トンネルの様子



写真－4 牧谷トンネルの様子

浦富IC～東浜IC間の完成により岩美道路は全線開通し、西側に隣接する駟馳山（しちやま）バイパス及び東側の兵庫県との県境を跨ぐ東浜居組道路とあわせて鳥取市福部町から兵庫県新温泉町居組までの約16kmが自動車専用道路で繋がることになります。鳥取県東部「因幡」と兵庫県北部エリアの「但馬」は古くから歴史や文化、生活圏を共有している地域であり、1市6町（鳥取県鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町及び兵庫県新温泉町、香美町）からなる「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成しています。岩美道路の全線開通によりこの「麒麟のまち」圏域の連携や交流がより一層進み、圏域の一体

的發展に大きく寄与することが期待されるだけでなく、新温泉町から高次救急医療機関である鳥取県立中央病院までの所要時間が現在より約4分短縮されるなど命を守る道としても重要な役割を果たすことになります。

なお、兵庫県内では平成30年度から浜坂道路Ⅱ期の居組IC～新温泉浜坂IC間（L=7.6km）の事業も進められており、この区間が開通すれば鳥取市福部町から兵庫県香美町の佐津ICまでの約45kmが繋がることとなり、地域間の連携や交流がますます進むこととなります。

さらに、佐津IC以東の区間についても、北近畿豊岡自動車道と連結する（仮称）豊岡北JCT・ICから（仮称）竹野ICの間（L=4.9km）が令和3年度に竹野道路として事業化されており、鳥取～豊岡間のうち未事業化区間は佐津IC～（仮称）竹野ICの間（L=約5km）を残すのみとなっています。

このように、鳥取から豊岡までの間が自動車専用道路で繋がる見通しが見えてきており、近い将来、山陰近畿自動車道と北近畿豊岡自動車道を経由する関西方面への新たな高規格道路ネットワークが完成すれば、平成25年3月に全線開通した鳥取自動車道とあわせて鳥取県と関西を結ぶ高規格道路ネットワークが多重化されることになり、関西との交流・連携のさらなる強化が期待されます。

4. ソフト事業の積極的な展開

1) 広報チラシやSNSを活用した情報発信

開通が徐々に近づいてきた令和2年になると、橋梁やトンネル工事をはじめ、ICTを活用した大規模土工など、様々な工事が数多く並行して進んでいました。そのことが、インフラ整備事業の魅力・スケール感や整備効果などをPRする絶好の機会となりました。

まずは、若い世代や地域外の人々を含め幅広く岩美道路を知ってもらおうと、以前より発行していた地元向け広報チラシ「岩美道路だより」に加え、SNS（InstagramやFacebook）を活用した日々の整備状況の発信を始めました。このSNSの活用には、現場の工事状況写真やドローンによる航空写真などを高頻度で投稿することにより、単なる岩美道路の整備状況の発信だけではなく、インフラ整備工事のリアリティーや岩美道路事業のスケール感などを分かりやすくPRしたいという意図もありました。現在では、投稿を重ねるたびにInstagramやFacebookのフォロワー数も順調に増加しており、SNSの活用効果を数字で感じることができています（写真-5）。そしてその結果、いかに映える写真を投稿するかという遊び心に火がつくとともに楽しみとなり、情報発信を行う上での好循環が生まれています。

また、山陰近畿自動車道や山陰海岸ジオパークロードとしての情報発信の観点から、隣接する兵庫県の浜坂道路Ⅱ期と連携した広報チラシ「岩美道路 News & 浜坂道路Ⅱ期 News」を作成することとしました



写真-5 インスタグラム

(写真-6)。これは、県域を越えた広域的なPRにより、開通後の観光客の増加に繋がればという期待を込めての取り組みでもあります。そのため、この広報チラシは、SNSでも発信するとともに、多くの人が立ち寄る岩美町の道の駅「きなんせ岩美」や新温泉町の道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」にも配布しています。



写真-6 コラボ企画・岩美道路 NEWS & 浜坂道路Ⅱ期 NEWS の最新号

2) 出前講座や現場見学会を通じた地域の課題解決に向けた工夫

次に、地方が抱える建設分野の担い手不足などの課題解決に繋がればという思いから、地元岩美町内の小学校を対象に道路に関する出前講座(写真-7)や各工事の現地見学会(写真-8)をはじめ、インフラ整備の魅力体感イベント(写真-9)など様々なメニューを企画しました。実施に当たっては、地元向け広報チラシ「岩美道路だより」の配布に併せ、企画メニューを写真等で解説した募集チラシと申込用紙とをセットにし小学校へ配布し、募集を行いました。その結果、多くの講座や見学会及び体感イベントへの申込みがあり、企画が軌道に乗りました。



写真-7 道路に関する出前講座の様子



写真-8 小学生の現地見学会の様子



写真-9 インフラ整備の魅力体感イベントの様子

このようなメニューを実施し始めると、施工業者さんからの積極的な協力や提案（橋の仕組みを分かりやすく伝える実験（写真－10）やトンネル防水シートへのメッセージ書き（写真－11）など）があり、より充実したメニューになるとともに、子ども達に楽しんでもらえるイベントとなりました。同時に、地元高校生や地元老人クラブなどを対象とした現地見学会（写真－12）の機会も増えており、良い波及効果が生まれていると感じています。これらの取り組みを通じて、道路事業などインフラ整備への興味・関心のほか、地元への愛着、ひいては若者の地元定着に繋がることを期待しています。



写真－10 わかりやすい実験の事例



写真－11 防水シートへのメッセージ書き



写真－12 高校生の現地見学会の様子

また、インフラ整備への興味・関心や地元への愛着といった取り組みの効果を持続させる工夫として、高架橋やトンネルのオリジナルカード（写真－13）の製作・配布も行いました。これは、マニアの中で人気のダムカードを真似て作ったもので、遊び心以外の何ものでもありませんが、子どもたちにはとても好評でした。さらに、現地見学会やインフラ整備の魅力体感イベントを思い出や記念として記憶に残してもらおうと、イベント当日の写真を使用したオリジナルカードの製作・配布も実施しています。このオリジナルカードは、シリーズ化するなど開通後の取り組みにも繋げられるものであり、今後も引き続き楽しみながら工夫した仕掛けを考えていきたいと思っています。



BRIDGE-DATA

所在地：鳥取県岩美郡岩美町浦富
 河川名：吉田川、相谷川
 路線名：一般国道178号(岩美道路)
 上部工型式：23径間連続高架橋
 橋長・幅員：872.0m・12.0m
 管理者：鳥取県
 架設年：2013年～2022年

ランダム情報
 浦富高架橋は、山陰近畿自動車道の浦富IC付近で、県道網代港岩美停車場線、吉田川、JR山陰本線及び相谷川を連続で跨ぐ高架橋です。
 東側の道竹城トンネル上部からの眺めは、浦富高架橋の全景や岩美町の中心部が楽しめるほか、遠方に日本海を望むことができ、絶景です。



BRIDGE-DATA

所在地：鳥取県岩美郡岩美町浦富
 河川名：吉田川、相谷川
 路線名：一般国道178号(岩美道路)
 上部工型式：23径間連続高架橋
 橋長・幅員：872.0m・12.0m
 管理者：鳥取県
 架設年：2013年～2022年

ランダム情報
 浦富高架橋は、山陰近畿自動車道の浦富IC付近で、県道網代港岩美停車場線、吉田川、JR山陰本線及び相谷川を連続で跨ぐ高架橋です。
 東側の道竹城トンネル上部からの眺めは、浦富高架橋の全景や岩美町の中心部が楽しめるほか、遠方に日本海を望むことができ、絶景です。



TUNNEL-DATA

所在地：鳥取県岩美郡岩美町牧谷
 路線名：一般国道178号(岩美道路)
 トンネル工法：NATM(ナトム工法)
 掘削工法：補助ベンチ付全断面工法及び上平先導ベンチカット工法(突進掘削)
 延長・幅員：412.0m・12.0m
 管理者：鳥取県
 着工/完成年：2020/2022年

ランダム情報
 牧谷トンネルは、浦富IC～東浜IC間(3.8km)に設置される2本のトンネル(東浜トンネル、牧谷トンネル)のうち、西側の牧谷地内の山地を貫く大断面トンネルです。
 岩美道路は完成2車線であり、トンネル内部にも中央分離帯が設置されるため、内空断面が約9.519mと大断面のトンネルとなっています。

写真-13 岩美道路オリジナルカード

5. 岩美道路全線開通とその後を見据えた取り組み

1) 岩美道路全線開通記念イベント開催に向けて

紹介した取り組みを通じた学校関係者や地元マスコミの反響などから、改めてソフト事業の重要性を感じています。そこで、全線開通が間近となる今年度は、鳥取市内から兵庫県新温泉町居組まで自動車専用道路で結ばれることによる広域的なネットワークの活用やアフターコロナ等も見据え、当県の山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館のほか、地元青年経済団体（一般社団法人鳥取青年会議所、鳥取商工会議所青年部、岩美町商工会青年部）などとも連携した開通記念イベント開催に向けての取り組みを始めています（写真-14）。



写真-14 青年経済団体等との打合せ

これは、幅広く関係者と協働することにより、地域全体の機運醸成を図るとともに、地域のまちづくりイベントを多く手掛ける青年経済団体のノウハウを活用できるという側面もあります。実際、イベントに向けての事前打合せでは、ユニークなアイデアや活発な意見が出てきました。今後、イベント内容を調整しながら組み立てていきますが、今から非常に楽しみです。

さらに、鳥取大学ツナガルドボク（「地方土木業界のアップデート」「若者の居場所づくりで地方創生」を目標に鳥取を拠点に活動している学生団体）の学生からの意見やアイデアを取り入れることで、次世代の担い手となる若者へ道路事業やインフラ整備事業の魅力を分かりやすく伝えるための仕掛けも検討

し始めました（写真－15）。こちらでも学生ならではの目線で色々な意見やアイデアを聞くことが出来ており、開通記念イベントのみならず、色々な意味で今後につながる仕掛けだと感じています。

2) 開通後のソフト事業への布石

山陰近畿自動車道では、兵庫県の浜坂道路Ⅱ期（L=7.6km）が岩美道路全線開通の数年後の開通を目指し整備中です。この浜坂道路Ⅱ期が開通すれば、鳥取市～兵庫県香美町が地域高規格道路で結ばれ、「麒麟のまち」圏域における観光や移住定住など様々な分野での連携や、県域にとらわれない一体的な魅力あるまちづくりの更なる推進が期待されます。そのため、今後も双方が連携しながら、まちづくりに取り組む機会（イベント）を増やす点において、この山陰近畿自動車道の開通イベントは、とても重要な意味を持つと思います。

このような背景から、岩美道路全線開通記念イベントでは、地元青年経済団体を通じ、兵庫県但馬地域の経済団体へも声かけを行っています。その結果、開通後のスタンプラリーなど麒麟のまち圏域全体での取り組みが活発になることや、今後、山陰近畿自動車道の区間開通の度に、官民一体となった地域間の連携や交流が深まることにより、地域高規格道路の整備と地域活性化の機運醸成の継続的な相乗効果につながることを期待しています。

また、岩美道路事業を通じて実施した様々なソフト事業が良い前例となり、県内で充実したソフト事業が継続的に実施される良いきっかけになればと思います。そして、将来の色々な可能性を想像しながら、楽しい企画や次に繋がる仕掛けをどんどん考えて実践できる環境が整っていくことが大切だと思います。



写真－15 鳥取大学ツナガルドボクとの打合せ

6. おわりに

時代の変化とともに現在では、「モノ消費」から「コト消費（体験）」へ市場や消費者のニーズが変化しています。さらには、その瞬間・場所・人でしか味わうことのできない価値である「トキ消費」へと変化しようとしています。岩美道路全線開通記念イベントでは、遊び心を忘れず、開通直前というその時その場所でしか味わうことが出来ないイベント、まさに「トキ消費」を目指し準備を進めていますので、ぜひ、皆さまのお越しをお待ちしております。

そして、このような変化の時代の中では、今後もハード整備との両輪をなすソフト事業の役割や重要性が増していくと感じています。今後とも行政と地域が一体となり楽しく遊び心を持ちながら色々なソフト事業を企画・実践していきたいと考えています。